

団体名	安芸高田市	所属	政策企画課	他団体等との連携	神楽門前湯治村， J Aグループ広島等
連絡先	企画調整係 (0826)42-5612				

取組事例名	高校生の神楽甲子園ひろしま安芸高田の取組	取組期間	平成23年度～
--------------	----------------------	-------------	---------

取組の概要 ～ 全国各地の高校生神楽が一堂に会する大会の開催

安芸高田市は、神楽の新舞発祥の地ともいわれており、広島県の無形民俗文化財に指定されている神楽が11もあるなど、その文化価値も高いものがあり、また、22の神楽団と16の子ども神楽団に加え、女性神楽団、高校・中学校にも神楽団がある。さらには、市内には温泉施設の神楽門前湯治村があり、そこには神楽専用施設「神楽ドーム」がある。

こういった地域資源を活かし、活力ある地域づくりを目指す中、地域の誇りである伝統芸能「神楽」の保存伝承に努力する、全国各地の特徴的な高校生神楽が一堂に会し、参加する高校生自らも企画・運営に携わりながら大会を開催している。

第1回大会（平成23年度）参加校5校、第2回大会（平成24年度）参加校10校

第3回大会（平成25年度）参加校14校

取組の背景 ～ 伝統芸能の後継者育成

地域の誇りである伝統芸能「神楽」の保存伝承に日々努力する神楽団や神楽社中などの保存会にとって、後継者育成は永遠の課題である。神楽を伝承する各地では、子ども神楽にも力を入れて後継者育成に努力しており、子どもたちの神楽体験と大人の保存会入会への架け橋となるのが高校生神楽である。

神楽の盛んな地域では、地元高校に神楽同好会等の団体があり、神楽団予備軍とはいえ、その活躍ぶりと役割はととても貴重であり、その高校生たちの「ハレの舞台」として、神楽甲子園を開催している。

取組のねらい ～ 神楽を通じた交流と技術向上による郷土芸能の保存伝承

各地の特徴的な高校生神楽が一堂に会し、日ごろの研究や練磨の成果を披露しあうことで、神楽を通じた交流を深め、また、お互いの技術向上に生かし、もってそれぞれの地域で郷土芸能の保存伝承に寄与しようとするものである。

取組の具体的内容 ～ 参加高校生による運営と民泊の取組

主催は、参加校、市、市教育委員会、神楽門前湯治村（三セク）により実行委員会を組織して行い、本大会については「私たちが運営します。私たちが舞います。」のキャッチフレーズのもと、運営に当たっては、参加した高校生が力を合わせて進行することとしている。

また、イベントイーターとしての力を習得する企画も備えており、担い手育成型の大会でもある。

今年で3回目の開催となるが、年々参加校も増え、昨年は中国地方、四国地方、九州地方からの参加があり、今年度については、昨年度の参加エリアに加えて、岩手県、静岡県からの参加もあり、計14校の出演となり2日間の開催となった。

さらには、市内に宿泊施設が少ないことから、今年度から民泊での受入を計画し、6校65名を民泊で受け入れた。



(神楽甲子園の準備・舞台・インタビューの様子)

取組を進めていく中での課題・問題点 ～ 交流のきっかけづくりと宿泊施設の確保等

(1) 伝統芸能の保存伝承に取り組む高校生の交流

「神楽」はマイナーで、発表の機会も少ない中、全国各地で、地域の誇りである伝統芸能の保存伝承に日々努力する高校生が互いに切磋琢磨し、交流を深めるきっかけづくりを検討する必要があった。

(2) 参加者の増加に伴う財源、宿泊施設の確保

遠方からの参加校が増え、大会参加への旅費や神楽衣装等の運搬費が大きくなり、その財源確保並びに宿泊施設を確保する必要があった。

創意工夫した点 ～ 運営を通じたコミュニケーション、住民協力による民泊等

(1) 参加高校生による運営を通じたコミュニケーション

本大会では、各地の特徴的な高校生神楽が一堂に会し、自らも主催者の一員として企画・運営に携わりながら日ごろの研究や練磨の成果を披露しあい、神楽を通じて交流を深めている。

具体的には、大会の前日に交流会を開催するとともに、各地の参加高校生が自らも主催者の一員として、当日の司会進行、会場インタビュー、会場清掃等を担い、その活動を通じて、コミュニケーションを図ることとしている。なお、ポスターやチラシに使用したイラストも、参加した高校の生徒が描いたものである。



(神楽甲子園の司会)

(2) 企業による協賛、住民協力による民泊

地元の特徴的な資源を活用したまちの活性化を図る観点から、「JAグループ広島」が特別協賛として参加。市内宿泊施設が少ない本市としては、新たなハード整備は現実的ではないため、地域住民の協力により民泊を実施し、地元地域内の更なる盛り上がりにつながった。

取組の成果(効果) ～ 全国各地からの参加、内外からの来場者

(1) 全国各地からの高校生の参加、内外からの来場者

前回は、全国各地の高校生が約200人参加し、地元、市外及び県外から約1,500人の来場があった。高校生の舞ということもあって、神楽マニアはもちろん新たなファン層の獲得にもつながっている。

高校生のはつらつとした舞に対し、会場の声も好評であり、「毎年見に来たい」と話される方も多く、「神楽のまち」、「神楽の魅力」も十分PRできている。

(2) 高校生のモチベーションの向上

「神楽」はマイナーで、発表の機会も少ない中、約1,500人も来場があり、また、来場者インタビューを高校生自ら実施することで、来場者の方の生の声を聞くことができるため、高校生たちも「励みになる」と舞にも力がこもっており、伝統芸能の伝承等の同じ志を待つ高校生同士の交流も大いに盛り上がっている。

今後の展開 ～ 更なる魅力ある大会の開催

今大会は、「JAグループ広島」が特別協賛として参加いただいた。今後は更なる企業等のスポンサーを獲得できるような大会とし、運営経費の削減を目指す。

現在は、参加校に対し、参加補助金として旅費、衣装の運搬経費等も主催者側で支出しているが、今後は、参加校の自費で大会参加できるような魅力ある大会を目指す。

他団体へのアドバイス ～ 地域資源の活用による活性策と企業の巻き込み

地域の活性化を図るに当たっては、各市町とも様々な取組を展開されていることと思う。

地元の特徴的な資源を活用して、まちの活性化を図ろうとするとき、各種団体や企業等を巻き込む手法も必要かと思う。

本市の神楽を活用した取組も、ただ単に伝統文化の保存伝承にとどまることなく、地域の活性化、経済効果、雇用の創出、交流人口の増加、定住人口の増加へつなげることが、最大の課題だと思う。

